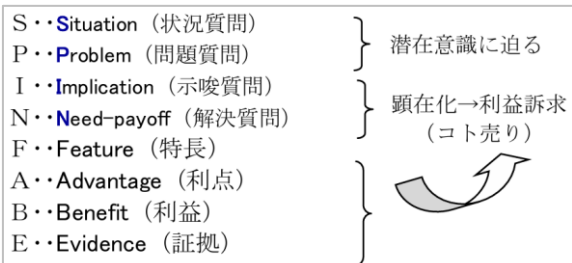


何事もプラス発想ですね！
先月、事業承継をして相談役になりました。肩の荷が軽くなりましたが、6月に思わぬ「嘔吐」という事態になりました。逆流性食道炎との診断ですがその際に、腎性貧血と判明して治療中です。運がよい方とプラス発想しています。 栩野

「暗示」の威力

右掲は「コト売り」と分類される営業手法の一つSPIN法とFABE法を示しています。SPIN法は「コト売り」の手順であり、FABE法は商品売り込む4要素です。SPIN法は状況質問で問題を炙り出すキッカケをメイクするのです。つまり、「コト売り」は、自分が持っている仮説(商品・サービス)のニーズを探り出す重要な手法で、ポイントは**Implication**で「含意」「暗示」「影響」「結果」「巻き込まれること」です。「示唆質問」と言っていますが実際には「こうではないですか？」

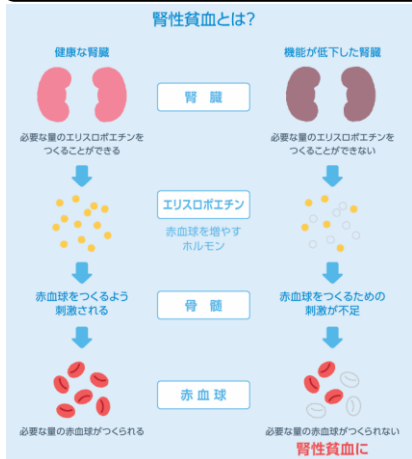


「暗示」をかけることになります。つまり、会話の中で、お客様の潜在意識に迫り、「暗示」をかけてニーズを顕在化する手法です。

実は、私自身のことで恐縮ですが、6月4日の朝に強烈な嘔吐と血便に見舞われました。嘔吐の際に、血が混じっていたので非常にショックを受け胃腸科の医院で診察を受けました。触診段階で逆流性食道炎と言われて少し安心したのですが、1週間後に血液検査の結果で「腎性貧血」と言われ、専門の大阪警察病院の腎臓内科水野先生を紹介されました。警察病院でも血液検査を受けましたが、過去に心臓血管科で大動脈瘤の手術を受けたので過去の血液検査の結果も同時に表示されました。腎機能を示すeGFR値が今回は下がっている事と同時に貧血を示す赤血球数・血色素量・ヘマトクリットの数値が低いのです。

今までも定期的に検査を受けていたので血液一般検査で低いことやeGFR値も年々低下している事は分かっていたのですが、かかりつけ医は何も指摘してくれなかったのです。腎性貧血は自分では気づきにくいものでいうと、それまで、自転車に乗ったりウオーキングに励んでいたのですが、指摘を受けると息切れを感じるように

「必要・必然・最善」



なったのです。これはマイナスの暗示です。しかし、専門医の水野先生は懇切丁寧に説明して下さい左に示すエリスロポエチンという腎臓のつくるホルモンを増やす薬(ダブブロック錠)を処方して下さいました。ここ10年ほど前に開発された物との事です。多分、かかりつけ医は腎性貧血の薬があると認識していなかったと思います。HPで検索すると「ダブロデュスタットは低酸素誘導因子(HIF)-αの分解に関与する、HIFプロリン水酸化酵素(PHD1~PHD3)を阻害し、HIFαを安定化させます。その結果、HIF応答性であるエリスロポエチン遺伝子の転写を促進させて赤血球産生を誘導すると考えられます」という遺伝子に関する薬のようです。

ワンポイント・アドバイス

腎臓に利く薬はないと思っていましたが、科学の進化で遺伝子に直接左右する薬と出会いました。腎性貧血は自身では気づき難いものですが、かかりつけ医が休診だったこともあって、胃腸科にかかり判明しました。仮に、かかりつけ医だったとしたら、今回も見逃していたと思います。人生は何が幸いするか分かりませんが、休診という偶然もラッキーに左右したと思います。「運がよい」と自己暗示して元気に過ごしたいと思います。



私自身は「運が良い」と思っています。例えば、大動脈瘤の手術も坂本先生との出会いがなければ、受けていなかったと思います。この胃腸科医院から紹介された水野先生との出会いがなければ、腎性貧血に気づかずに過ごしていたかも知れません。故船井先生は「何事も必要・必然・最善」とおっしゃっていましたが、今までの病院が不定期になったので、いつかは変わらなうと思っていたが、嘔吐というショッキングな事態で、今までの病院も休診日だったことも重なって胃腸科へかかり、血液検査の結果から腎性貧血が判明して、即紹介で翌日警察病院の診察を受けたのです。嘔吐で「必要」、胃腸科で「必然」、そして、血液検査で「最善」の紹介を受けたと喜んでいました。

ダブブロック錠のお陰で息切れも感じなくなっており、貧血も克服しつつあると喜んでいます。これからも元気に過ごせると感謝しています。